

研究室紹介 情報通信学部 福原研究室

組込みソフトウェア工学科 准教授
福原雅朗 (2002年卒)

通信工学同窓会の皆様、こんにちは。福原雅朗と申します。この度、通信工学同窓会会報に寄稿する機会を頂き、大変光栄に思っております。僣越ながら、私の略歴と現在の研究室の様子を紹介させていただきます。

私は1998年4月、当時普及し始めていたポケベル・PHS・携帯電話やパソコン・インターネットに興味を持ち、東海大学工学部通信工学科(湘南校舎)に入学しました。諸先生方から多くの学びを得た中でも、特に町田東一先生の電気回路や富山薫順先生のデジタル信号処理の講義内容は、今の教育活動で大いに参考にしていきます。松前重義先生についてのお話を諸先生方から



2018年度福原研学部生の学位授与式(中央が福原先生)

伺うことができたことも覚えております。通信工学という幅広い分野の中で、学部3年後期の集積回路設計製作という授業でIC設計の面白さと重要度の高さに惹かれ、吉田正廣先生の研究室で集積回路に関する研究を始め

ました。吉田先生よりニューロンMOSTランジスタという機能デバイスの論文を提示して頂き、それを活用した連想メモリ回路の研究で2007年3月に博士(工学)の学位を取得、その後6年間高校教員(数学)を務めたのち、2013年4月から現学科に所属しています。

私の現在の研究対象は以前と変わらずニューロンMOSTランジスタを扱っています。この機能デバイスは1990年代後半には国内外で盛んに研究され、通常のCMOS回路に比べて少ない素子数で柔軟な情報処理を実現できる等の長所がありながら、電気的に不安定な箇所があるため実用に至っていませんでした。私と共同研究を行っている藤本邦昭先生(東海大学工学部電子工学科卒、現・東海大学基盤工学部学部長)が2015年頃に考案した回路を適応させることで上記問題を解決できると分かりつつある状況です。

現在ターゲットとしている回路は主に2つあり、一つ目は連想メモリ、二つ目は可変論理回路です。前者は検索を得意とするハードウェアであり、現在注目されている機械学習やIoTに適用できないか模索中です。後者は、こちらも注目度急上昇中であるFPGA



福原研究室の様子(後列右福原先生)

(Field Programmable Gate Array)の構成要素に成り得ると考えています。

研究手法としては、VDEC(東京大学・大規模集積システム設計教育研究センター)を通して半導体回路設計業界標準のCadenceやSynopsysのツールを利用し、回路シミュレータHSPICEで提案回路をシミュレーション検証するとともに、実際にICチップを試作し電気的特性を評価することで提案回路の有効性を示しています。

これらの研究内容に対し、2019年5月現在、教員1名、修士2名、修士1名2名、学部生11名の福原研究室メンバーで取り組んでいます。学生達は元々の能力にはバラツキがありますが総じて吸収が早く、思いがけないアイデアが閃いて急速に研究が前進することもあります。近年は英語に対する意識が浸透しており、積極的な学生は学部4年次でも国際学会に参加し英語でプレゼンすることもあります。また、学生主導で高輪地域の小学生対象の電子工作教室を毎年企画・運営し、将来の技術者の育成にも力を入れています。お陰様で就職活動に該当する学生(修士2年、学部4年)の半数近くが回路設計部門を持つ会社から内定を頂き、その他のソフトウェア業界や公務員等を含め過去3年間の福原研卒業生の就職率は100%です。毎年11月に開催される建学祭等の機会に卒業生が研究室を訪ねてきてその活躍りを伺うことも増えてきており、まさに教員冥利に尽きると感じています。今後も諸先輩方や周囲のお力添えを得ながら、社会に貢献できる人材を世に送り出すため教育研究活動に励む所存です。

卒業生便り
「社会に出た感想」

本村光揮
(2019年通信ネットワーク工学科卒)



私が東海大学を卒業して、新たに社会人となってから1か月半がたちました。この間に新入社員研修として、情報技術の習得やビジネスマナーの習得、会社のルールを学びました。1か月半の間にさまざまなことを学びました。まず大学で学んだことが研修で活用できたということです。研修では仕事で扱うプログラミング技術を学びましたが、大学で学んだ情報技術を活用できたので、より深くこの技術を学びました。一方で、ビジネスマナー研修では敬語がすぐに出てこないことや、お辞儀、あいさつができていなかったという課題もありました。なので、これからの社会人生活の中でしっかりと習得できるように努力していきます。次に、社会人は学生よりも自分の振る舞いに気をつけなければならないということです。会社では情報管理が徹底されているので、仕事を家に持ちかえることができないほか公共の場での会話の内容やSNSでの発言に気をつけなければいけません。これが守られていないと思われ損害につながるからです。ささいなことでも自分で勝手に判断せずに、しっかりと確認する必要があることを学びました。

最後に、報連相を徹底することです。学生時代の学習では、一人で計画を立て、それに従って自分のペースで行って来ました。しかし仕事ではたくさんのメンバーが役割を分担し、同じペースで進めていきます。なので仕事内容が周りとずれていたり、自分の力だけで解決しようと時間をかけて作業したりすることは避けなければいけません。これを解決するためには報告、連絡、相談を徹底して行い、周囲とコミュニケーションをとっていくことが大切であるということを知りました。

実際に現場に配属されるのはこれからなのでまだわからないことは多くありますが、この1か月半の間に学んだことや東海大学で経験してきたこと、これから関わっていく全ての人たちのことを大切に、これからの社会人生活を歩んでいきたいと思っております。

近況のご報告

名誉教授 富山薫順先生 (66年卒)

定年退職して早10年が経ちました。現役のころと比較すると、気力、体力、知力、おまけに忍耐力まで低下傾向にあり、後期高齢者としては何とかしなければと、焦っている状況です。このような中、悪戦苦闘の状況を続けてみました。

私は60歳の時に、定年になったら料理学校へ通う、畑を借りて野菜を育てる、と決めていました。大学の厚意に甘えて69才まで教鞭をとることが出来ましたので、その1年前の68歳から始めました。料理学校は、校長先生の話が大変面白く6年も通ってしまいました。料理の腕は全く上がらず、家族から毎週高価なランチを食べていると揶揄されていました。残念ながら一昨年閉校になってしまいました。我が家から徒歩150歩のところの40坪の畑を借りることが出来たので、野菜作りを始めました。四季折々の野菜を作る楽しさを味わいながら、出来が悪い時は天候のせいにして、旨く育った時は腕が良いのだ、と自慢しています。6年間の野菜作りを経験して、専門家の苦勞を実感しています。料理学校が閉校になってしまったので、昨年の初めから週1回ボラダリングを始めました。1年間通って7級(1番下の級)、6級を通過し、5級に挑戦しております。6級と5級の差は天と地ほどの違いがあり(私の感想)何とか頑張って1日も早く制覇したいと思っています。周りには小、中学生くらいの子供、高校生、大学生、社会人、老人と様々な方が楽しんでいますが、すぐ友達になれるので、いろいろと教えていただいて難しいルートに挑戦しております。午前中1時間半ほど練習すると心地よい汗をかくことが出来ます。数年前から友人に誘われてハイキングに行っています。ほぼ月1回のペースで200mくらいの低い山から3,000mを超す高い山まで(高い山の場合はケーブルカー、ロープウェイなどが備わっている山)約30座登りました。当初は7、8時間歩くことが出来ましたが、最近では5時間歩くのが困難な状況です。現在は卒業生にも誘われていて、先日は弘法山に行ってきました。

毎年人間ドックで検査してもらっていますが、年々コレステロールが多いのだ、尿酸値が高いのだと、赤点をたくさんもらうようになりました。運動をすることが赤点を減らす最も良い方法のようですから、暖かくなったらジムに通ったり泳いだりと健康に留意しながら、更にいろいろなことに挑戦していく予定です。皆さんも健康には十分に留意してお過ごしください。



大菩薩峠山頂にて

- | | | | | | | |
|-----------------------|-----|--------|-----|--------|--------|-----------|
| 2018年度
通信工学同窓会賞受賞者 | 優秀賞 | 本村 光揮君 | 努力賞 | 田中 希美君 | 松澤 春輝君 | 川村 遼平君 |
| | | 大場 光樹君 | | 山崎 優綱君 | 加藤 翼君 | シェイクアドルフ君 |
| | | 木村 隼人君 | | 宮岡 裕太君 | 金澤 駿君 | |



透析医療を中心に豊富な経験と実績で患者さまの声にお答えします。

医療法人社団 松和会
Medical Corporation SHOWAKAI

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3丁目12番12号
TEL 03-5304-5660 FAX 03-5304-5665
URL <http://www.showakai.or.jp>
e-mail: webmaster@showakai.or.jp

山王総合(株)は東海大学陸上競技部をサポートしています

Humanly Construction
SANNO
New Facility Management

業務内容
・建築施工 ・土木施工 ・設備施工
・設備管理 ・環境衛生管理
・保安警備 ・人材支援
・研修施設の委託運営
・医療機器設備、システム管理他

山王総合株式会社
〒259-1142
神奈川県伊勢原市田中141 TEL 0463-95-7700
<http://www.sanno-sogo.co.jp>
東京・神奈川・千葉・埼玉・山梨・静岡・北海道

icp

国際通信企画株式会社
URL <http://www.igrp.co.jp/icp/>

【新卒募集】
通信設備工事技術者/SE・SI・NE
会社見学、随時受付しております。人事課迄お気軽にお問い合わせ下さい。
人事課 e-mail jinjii@igrp.co.jp

皇居や東京タワー、国会議事堂、レインボーブリッジなどが展望できるフロア。

レストラン フランス料理・鉄板焼

宴会・会議場

東海大学校友会館
The Tokai University Club
株式会社霞ヶ関東海倶楽部 www.tokai35.jp
〒100-6035 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル35階
TEL 03-3581-0121(代表) FAX 03-3581-6200



「回路研OB会」の活動紹介

郡司 勝彦 (68年卒)



私は工学研究科修士課程を70年3月に修了し、以後、沖電気工業㈱に30年勤務し、TDK㈱、富士通メディアデバイス㈱、太陽誘電㈱等で携帯電話装置用の電子部品の開発に従事しました。回路研OB会は私がお世話になった通信工学科篠崎寿夫教授の研究室での有志の仲間の会です。私たち回路研の50年を振り返るとともに今後の抱負等を会報の紙面をお借りして紹介させていただきます。篠崎寿夫先生は約20年前、町田東一先生は昨年4月に世界されました。

篠崎先生に初めてお会いしたのは代々木X字型校舎の2階通称第3弱電研究室です。授業の件で質問に篠崎先生の部屋に行きました。先生の親切さに魅力を感じて大学院に進学して回路理論を深く勉強しようと思いました。その時は68年3月でした。当時研究室には町田東一先生、今井幸雄氏（修士2年）、永井正武氏（修士1年）、高橋史郎氏（修士1年）が研究に取り組んでいました。

町田先生は博士論文を作成中で研究に大変な時でした。当時、蔵市に町田先生が住んでいた部屋を借りて毎週土曜日の朝9時から数学、回路理論、文献等を読んで勉強と研究を行いました。これが回路研の始まりです。

当時研究室はコンピュータを用いたフィルタ、等化器の自動設計の研究が盛んで沖電気に勤務していた駒崎友和氏と篠崎先生、町田先生はOKITAC5090を用いての自動設計に関する研究に取り組んでおられました。今では一般的なフィルタの設計はカタログ化されていますが69年当時では画期的な研究でした。

篠崎研究室の卒研テーマはテーラ級数法を用いたフィルタ設計、等化器の設計、時間域と周波数域における回路設計が主なテーマでした。当時はアナログ回路の全盛時代と言っても過言では無いと思います。

回路研OB会のメンバーである高橋史郎氏、中村襄氏、本間光一先生、鈴木健文先生、松浦武信先生、私（郡司）、小堀隆弘氏の研究テーマもコンピュータを用いたものでした。

回路研のテーマはアナログ回路から時代の要求に合わせてLSIフィルタの設計に移りました。

研究室では金沢大学武部幹夫先生との共同研究も盛んで、スイッチトキャパシタフィルタ（SCF）の研究が盛んに行われておりました。大学院の修士課程でも、境田洋輔氏、柴田豊氏、故荒川邦夫氏がSCFの研究をしておりました。この他にも回路研では竹野巧氏はパターン認識、根岸一郎氏はオペアンプを用いた積分回路の研究を行っています。その後、小島紀夫先生、富山薫順先生が学位（工学博士）を取得されました。

90年台に入り技術革新が起り、移動体通信では特に、高周波のアナログフィルタの高性能小型化や低コスト化が要求され、回路研でもこの種のフィルタの研究を沖電気と共同研究を行

い産学共同での研究に取り組みました。その当時、回路研では誘電体フィルタの構造、有極型回路構造の理論的な究明を行っていました。この共同研究の成果として通信工学科の卒業生の採用が順調に進み90年の前半には沖電気の新卒採用で一番多い大学になった年がありました。

携帯電話装置用のデバイスの小型化、低コスト化は驚くスピードで進められた。その最先端の技術開発には回路研OBのメンバーが世界的に貢献したことは誇りにもてることだと思います。回路研のメンバーが卒業してからも定期的に今まで連携が取れたことは篠崎先生、町田先生、小島先生、富山先生、松浦先生、本間先生の協力があって継続しています。

この研究室は毎週土曜日の応用数学ゼミナールの後に懇親会が開催されましたが、長い年月の経過と共に形を変えて回路研OB会が存続しています。20数年前までは故三原義男先生、故寺本三雄先生、松尾守之先生、通研（NTT）から来られた故田中公男先生にも参加して頂きました。回路研OB会は定期的に開催し、

食事をしながらOBが先生方に今の仕事内容を報告してアドバイスや叱咤激励を受けて新たな気持ちで仕事に取り組んでいました。回路研OB全員が各企業で最先端の技術に携わる主要メンバーとして活躍しており、世の中の動きがこのOB会で予測できる時代でした。年月の経過は争えず、篠崎先生にお世話になったOBは現在70歳代になりました。一時期回路研OB会のメンバーの高齢化が進み5年間程度休会になりましたが、新たに4年前から町田先生の希望もあり再開しました。

それ以降はタイに赴任中の松浦先生の帰国日程に合わせて回路研OB会を開催しています。参加しているOBは最年長が78歳、75歳になりましたが74歳で現役のメンバーも居ます。このOB会は、これからも特に技術情報交換会を目指して開催したいと思っています。2年前からは新たに小林喜三郎氏、多田順一氏、室本惇氏にもメンバーとして参加をお願いしました。今回、このように回路研OB会の紹介の機会を与えて頂きましてありがとうございました。通信工学科のOBがこのような活動を行ない、今も続けていることを知って頂ければ幸いです。



「回路研OB会」の集い
(前列左から富山先生、本間先生、松浦先生)



「東海大学からNTTへそして今」

森下 博 (75年卒)



在学当時、私は池田辰雄先生の講義を受講しました。先生は本学へ来られる前に日本テレビへ勤められていた方です。その関係で受講生の私たちは日本テレビの放送設備を見学できることになり、希望者はテレビ局の各設備を間近で見ることができました。テレビを通して情報を発信する仕事の素晴らしさを体感し、私もこのような仕事をしたいと思いました。就職先は、全国テレビ局の中継をしているNTT（当時は電々公社）に勤めたいと思い電々公社へ志願し入社することができました。しかし、最初に配属されたのは情報発信の仕事ではなく電話交換機の保守メンテナンスの部門でした。入社当時はクロスバ（XB）交換機が主流になる時代でした。システム構成は接続判断をする制御部と通路路作製部があります。XB交換機は何千という多くのリレースイッチの組み合わせで交換制御を行うものです。同じ一つのリレーの中でも一つの接点動作位置を、他の接点より微妙に早く接触させたり、遅延させたりすることで、シーケンス動作を多種多様に変化させます。希望とは異なった部門ではありましたが、私はその仕事に感動し、やりがいを持って仕事に取り組むことができました。次々と電子交換機も進化して行き、それに従って仕事内容も複雑になっていきました。

そして入社6年目の頃、INS（高度情報通信システム）構構が当時の社長から提唱されました。これは従来の電話網を全てデジタル化し、全国統一のネットワークを構築しようというものです。武蔵野三鷹エリアで実験・開発を行うことになりました。私は三鷹電タビルを拠点と

したこのプロジェクトに参加することができました。当時の最先端の技術を組み合わせる実験をし、この時初めて出てきた技術の一つが「光ファイバ技術」でした。昭和57年からこのプロジェクトは始まりました。そして筑波研究学園都市において開催される国際科学技術博覧会で、INSデモに向けて始動しました。この実験結果をもとに本格的にデジタル網の商用サービスを開始することになります。INSデジタル網の東名阪基幹ルートである名古屋では、大同電話局に全国初のデジタル通信処理による加入者収容交換機（D70）を設置することになりました。私も、その工事のプロジェクトに従事できました。商用サービスをするための交換ソフトウェア等を含め、着工から実に3年近くかかり、サービス開始に至りました。当時としては最先端の時分割デジタル処理という高度な理論に基づいて交換接続させるというものです。無事サービスを開始をした時には、本当に感激でした。その後、デジタル網の拡大に向けた高速伝送装置の大容量化対応で、武蔵野研究所で開発された装置の実用化に向けた3G、4G装置検証にあたりました。

現在、従来の電話網からIPを通信基盤とした映像配信等、多様化したサービス提供に向けて次世代ネットワーク（NGN）の構築が進められています。最近のニュースで5Gが提供される報道を耳にして、従来想像できなかった高速情報通信技術が応用されてくる時代となりました。入社当時、電話を用いた通信速度は6.4キロビットといった程度の情報量でしたので、進歩の速さに驚きが隠せない状況です。松前重義総長の考案された無装荷ケーブルの時代から光ファイバへの変遷等、さまざまい勢いで情報通信の世界は動いていることを実感させられました。

今思い返すと、池田先生の講義を受講したことから出会えたNTTでの仕事に対し、大きな意味での情報発信の仕事ができたことに満足し、感謝の気持ちでいっぱいです。



電気管理事務所を開業して

小野 庄 助 (76年卒)

私は平成13年、47才のとき新潟で電気管理事務所を開業しました。この電気管理事務所を開業するには電気管理技術者という、資格が必要です。この資格を得るには電気主任技術者の資格と3年～5年の実務経験があれば、管轄経済産業局に所定の手続きをして、誰でも電気管理技術者として開業できます。

この仕事に魅力を感じたのは、電気事業法によりショッピングモール、ビル、工場プラント、病院などの電力設備を管理するには、この資格が必要となり、この仕事を個人で受託できるからです。

仕事の内容は電力会社から受電している高圧6,600Vを低圧200V、100Vに変圧する変電設備の保守点検が主です。また停電時のためにディーゼルエンジンやガスタービンの非常発電設備のある事業所も多く、これらの設備の保守点検も行うため電気だけでなく、機械工学の知識も要求されます。

近年は受託している設備に携帯端末を取り付け停電、漏電があった場合、私の携帯電話にメールで通報が来るようになってきました。携帯端末のアンテナの位置や機器設定なども行うた

め、通信工学の知識も必要です。また昨年から大規模太陽光発電システムいわゆるメガソーラーを受託しました。この設備は6,000坪の敷地に4,224枚の太陽電池パネルが設置されており、太陽電池パネルからの直流800Vをパワーコンディショナで交流三相380Vに変換し、これを高圧6,600Vに変圧して1,000KWの電力を売電しています。

仕事は強電屋ですが、通信工学科を卒業していれば、強電のことも十分に理解できますので、脱サラなどお考えの方は定年もありませんし、高収入も期待できますので、この資格にチャレンジされてみてはいかがでしょうか。



新潟越前浜のメガソーラー



こんにちは

佐々木 俊 秀 (88年卒)



皆さんとは広報理事委員として現在のTASCイベントが定期的に開催されるようになり代議委員会、同窓会サロンの受付でお会いする機会が多いかと思えます。委員として定常的活動が必ずしも出来ているとは思いませんが、一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしたいのでよろしくお願致します。

少し自己紹介させていただきます。私自身は意識していませんでしたがどうやら多趣味なようです。大学卒業前は読書、料理、楽器演奏、バイク、車等のモータースポーツが好きでした。社会人からスキー、ゴルフ、革靴も好きになり、範囲が広がるだけでなく深さも追及するようになりました。SNSの普及と共に音楽を通じて知り合った音友との交流が増えています。芸は

身を助くではありませんが趣味によるコミュニティの輪の広がりを実感しています。

2019年は働き方改革が叫ばれ、元号も平成から令和となり、新たな潮目を迎えています。多くの企業では60歳で定年を迎えますが、令和天皇は59歳2か月で天皇に即位。セカンドキャリアを迎える年齢で象徴天皇としての責務を全うすると国内外に宣言した訳ですが相当の覚悟で臨まれると想像しています。

私自身は所謂メーカーに就職しましたが、主に管理系であったため直接製品をリリースする機会はありませんでしたが一度だけ部品リリースに間接的に携わり、生みの喜びと達成感を得ることが出来ただけでなく、その部品を使用した製品を数多く見る機会に恵まれました。最近ではより付加価値の高い仕事求められるので、自分のアウトプットが何なのか自問自答する日々が続いています。

セカンドキャリアについては、幅広い趣味を職業に出来ればと漠然と考えますが、生みの苦しみと達成感を繰り返し得られ、人の役に立てるような職業を見つけないかと思っていますが、なかなか見つけられず苦慮している状況です。

通信工学同窓会のご案内

会員の皆様

盛夏の候皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。
秋季通信工学同窓会行事をご案内いたします。

*10月26日(土)～27日(日) 研修旅行「松前重義先生と英世学園」を学ぶ旅
戦後松前重義先生は農村教育にも取り組み1946年日本国民学舎(英世学園)を開校しました、建学の源流、猪苗代湖畔「天鏡閣」を訪れます。

*11月3日のホームカミングデーに参画し通信工学同窓会を開催いたします。
ぜひご友人、ご家族お誘い合わせでのご参加をお願い申し上げます。

日程：11月3日(日、祭日)

場所：湘南キャンパス 6号館6C-104教室予定

10:00:同窓会サロン 同窓生、恩師との歓談をお楽しみください

11:30:同窓生による講演会“HF帯、AM通信のお誘い”

講師：加藤欣一氏(75年卒 角田研) JR1KQU

CQ誌に7年間にわたって毎月HF帯AM通信の魅力を描き
HAMフェアーにも毎年参加、沢山の同好の仲間と交流

13:00:学部デモ(各学部紹介)などお楽しみください

14:00:大懇親会(総合体育館)同窓会本部主催

ご参加の皆さんと大いに歓談し交流をお楽しみください
抽選会などステージで楽しい催し物もあります

*11月30日(土)忘年会(校友会館)

お問合せ jimu@tasc.gr.jp ホームページ <http://tasc.gr.jp>

講師 加藤欣一氏のメッセージ：

2008年、3.8MHzのバンドが拡大されたところ、3.757kHzでAM通信を楽しんでいるグループがありました。大変興味がありましたので仲間入りさせていただきました。丁度その頃、仕事を引退したJA2の友人からHAMを再開したいとの相談があり7MHzで実験したところ350km離れている彼と常にS59+でローカルのように交信できました。QSOを重ねるうちに7MHzは実用的に使えることがわかり、次は「自作機で交信したい」との意欲が湧き、昔製作した機器を手直しして交信しましたら、40年前にタイムスリップした気分となり、彼からも若返った声が返ってきました。この経験がきっかけとなり私のAM通信の送信機、受信機を製作し運用する旅が始まりました。2013年のCQ誌1月号に「7MHz AM通信のお誘い」の記事を掲載したところ、その年のお正月には驚くほど大勢の方々がQRVされてきました。これは同じ思いの仲間が沢山いて潜在的AMファンの想いが一気に爆発した結果だったのです。AMでのDXですが、私はSSBで1万局以上の交信実績がありますが、AMでも楽しめます。今回の講演ではAM送信機、受信機の話から幅広くアンテナ、スプリアス対応等もご紹介したいと思います。若い方々の無線へ入門は大歓迎ですが、反面、シニアの皆様が各々の豊富なノウハウを持っておられます。このノウハウを吸収出来れば「あと20年はアマチュア無線で人生が楽しめる」と実感しています。またこのノウハウを次世代へ繋げることも我々の責務とも思っています。



アマチュア無線は自分の好きなことを突き詰める遊びではないでしょうか。自分のスタイルで楽しむAM通信にはクラシック音楽のような楽しみがいっぱい詰まっているのです。ぜひ、本講演に足をお運びください。お待ちしております。



箱根駅伝初制覇に思う

名誉教授 木村 登 先生(顧問)



本誌編集者より箱根駅伝初優勝は学園史に特記される快挙であり創部者としての「思い」を掲載したいとの依頼があった、個人的なことも多くこの「思い」を語ることに少々躊躇したが熱き依頼に心が折れ寄稿させていただくことにした。

まず、多くの皆さんが想像する「無上の喜びに浸る」感情は無く、「ほっとした」が素直な「思い」である。松前重義先生から陸上競技部を立ち上げるとの命を受け、実技経験のない自身の背景より断りを入れたが「本業の他に一つぐらい出来なくてどうする、君に任せるから思うようにやってくれ」との言葉に、慎重だった父親を説得し、家内の理解と協力得て「人生をかける覚悟」で陸上競技部に打ち込んできた責任感がこの「思い」の背景にある。

1960年、練習グラウンドは借用、工学部学生10数名で陸上競技部を立ち上げ、関東学生陸上連盟に加盟し歴史の幕を開けた。先ず部の根幹の方針として松前重義先生が「発明記」で述べられている「協力すれば何でもできる、協力の偉大さ」を校歌に込められた「協力勇気我が誇り、行く手に暗き雲ありも、進め若人いみじくも、魂の

鼓動を打ちならせ」を部員に繰り返して徹底させた。次に全競技に活躍できるよう幅広く選手の育成を目指した、その一つが組織を短距離、中長距離、投てき、跳躍の4ブロックに分け互いに競い合わせ、一番成績の良いブロックから主将を出すようにした。勝つためには実技指導以外どんなことでも積極的に取り組んだ。当初数年間は全く選手が取れず正直なところ箱根駅伝に出場できる状況ではなかった。有力他大学のように歴史、伝統を作らなければならない、勧誘に行っても高校生を指導する卒業生はいない、この至難な状況を打ち破るため遠大なプランを組み立てる、実技レベルは低くても勉学優秀な選手を入学させ体育教師に育てて送り出し、その高校からの陸上選手を集める仕組み作りである。現在その成果は日本一の霊峰富士山の裾野のごとく全国に広がっており中学・高校体育教師の先生方の総数はおよそ400名に上っている。部長時代は私費も含め有力選手の勧誘と資金集めに奔走し、結果が出せる人材での組織作りを目指した。この間良き職場の先生方のご支援をいただき通信工学科の教師としての務めも果たすことができた。陸上競技部は関東インカレ一部定着、箱根駅伝本選毎年出場を確保出来るようになり、また全日本インカレでも2位を得たので、創部30年目の節目を迎えた後、部長を宇佐美彰朗先生に託した。2000年代に入ると関東インカレ、全日本インカレ、出雲駅伝、全日本駅伝を制覇でき、実力校の評価を得るようになった。創部から始めたこの功績に対し陸上競技連盟より栄誉ある「秩父宮賞」を賜る光栄に浴した。現在顧問として陸上競技部を冷静に見守り必要なら微力であるが行動をとっている。部長31年間と顧問を加えて通算58年間陸上競技部を指導し続けてきてこの箱根駅伝初制覇は学園関係者、同窓会の皆さんの熱い期待と応援の賜物であると感謝いたします。改めてこの快挙に「ほっとした」安堵感に浸っています。

建学の地、清水を巡る研修旅行報告

中西 孝 夫 (66年卒)

母校建学75周年に合わせて建学の地、清水を巡る研修旅行を企画しましたところ19名のご参加を賜り、2018年9月19日(水)～20日(木)の日程で実施しました。初日の行程：

*清水港停泊の望星丸見学：巴川鉄道岸壁に停泊する望星丸に乗船、船舶運航課の世古氏の案内で船内見学し質疑にも丁寧に対応いただき更に荒木船長のおもてなしも受け充実した見学となりました。

*海洋学部清水キャンパス：事務部長、福田氏のご挨拶をいただき、事務課、逆井氏の案内でキャンパス・ツアー。途中、海洋生物学科の学生さんの案内で水槽で飼育中の魚類を見せていただき皆さんの興味を惹きつけました。幼稚園児から大学院生までが学ぶ清水キャンパスに感嘆の声が聞かれました。

注) 1943年建学時(開校)は三保の仮校舎でスタート、同年、駒越本校舎完成。駒越校舎は推定で現在のシーサイドゴルフ場近辺(清水キャンパスから約4km西)

*世界遺産三保の松原：「神の道」を歩いて、羽衣の松のある海岸からの景色を楽しみました。富士山は雲がかかっていましたが天候は良くまさに「海涛叱咤す太平洋」を実感出来ました。

*海洋科学博物館：鈴木学芸員の説明と案内で水族館の裏側まで案内していただき

ました。駿河湾の深海魚をはじめとする魚類の数々、大型水槽のサメなど見ものです、ご家族での来館をお薦めします。

*宿泊は「三保園ホテル」「はごろも温泉」でリラックスの後、宴会で懇親を深めました松尾先生からは三保の伝説にちなむ謡曲羽衣の一節をご披露いただき、盛り上がりしました。

二日目の行程：

*日本平ロープウェイ、国宝久能山東照宮：ガイドさんの案内で家康公の眠る神廟まで見学、宝物殿では数々の遺品に話題が弾みました。

*鉄舟寺：今回の目的の一つ「建学の歌」で馴染みのお寺、その背景を学ぶ訪問です。建学当初物理科の寮として使用され学生は三保の仮校舎まで船に乗って通学しました。残念ですが良く事情を知るご住職が逝去され講話を拝聴出来ませんでしたが、山岡鉄舟が再興した本堂、宝物館を見せていただき、歴史ある名刹と鉄舟に触れ「響りは高し鉄舟寺」を感じ取る事が出来ました。建学当時の宿坊は立て替えられています当時の「風呂釜」が残っているとのこと。

*清水魚市場、「河岸の市」：最後に立ち寄ったのが人気の魚市場です参加者の皆さんしらす、桜エビ、干物など沢山の土産を求めました。幸いにも雨も弱く、建学の地、清水を巡る有意義な旅が出来たことを報告します。



清水キャンパスにて

事務局便り

*同窓会AO入試に関するご相談は遠慮なく事務局まで連絡ください
*クラス会など開催支援いたします、事務局までご連絡ください
来年度「春季同窓会の集い」は5月23日(土)高輪キャンパスです

お願い：*円滑な運営のため会費未納の方の納入をお願いします
*住所、メールなどの変更は事務局までご連絡ください

ホームページ <http://tasc.gr.jp> 事務局宛てメール jimu@tasc.gr.jp

東海教育産業株式会社 代表取締役 柳 沢 真 一



本 社 神奈川県伊勢原市下船屋164
Tel. 0463-92-1881 (代)
伊勢原旅行センター 神奈川県伊勢原市下船屋143 東海大学医学部付属病院内
Tel. 0463-93-3980 (代)
湘南旅行センター 神奈川県秦野市南栄3-10-35 東海大学同窓会館内
Tel. 0463-77-3522 (代)
熊本旅行センター 熊本県熊本市東区渡船9-1-1 東海大学けやき会館内
Tel. 096-250-2885 (代)



営業企画室 神奈川県伊勢原市下船屋164
Tel. 0463-93-1870 (代)

ホームページ <http://www.tokai-eic.co.jp/>

